

インターバンクの声（2016 年 11 月 10 日）

昨日の東京時間に開票が進んだ米大統領選挙は、接戦になるにしても民主党クリントン候補が最後には勝利するだろうとの事前予想が見事に覆され、共和党トランプ候補が次期米大統領に選出された。序盤こそ 105 円台中盤へ上昇したドル円は、トランプ候補が激戦州で次々勝利を収め始めると急激にドル売りが進み、トランプ候補の勝利が見え始めた昼過ぎには 101 円台まで下落した。朝方、買いで寄り付いていた日経平均株価も投資家のリスク回避による売りが殺到、一時は下げ幅が 1000 円超まで拡大、前日から 900 円超下げて引けている。ロンドン勢が参入してきた頃、ドル円はいったん 102 円台から 103 円台まで値を戻していたが、この局面ではロンドンとニューヨーク市場がどう反応するのか本邦勢は不安な気持ちでいっぱいだった。当然ながら不安は海外市場でも「トランプ・ショック」が続いて円の高騰や株安が進むことだったが、ロンドン早朝からのドル買いはその後も続き、米国株や米中長期金利の上昇もあってドル円は 105 円台後半まで上昇した。兎にも角にもトランプ次期大統領が決った初日のニューヨーク市場は、株価の上昇に象徴されるような期待感に満ちた反応となったが、昨日の値動きが続くとの確信はまだ持てない。米連邦準備制度理事会 (FRB) の 12 月の利上げの行方も不透明になったとの声もあり、ドルが一転急落するリスクも残っているような気がする。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。